
組織と真っ向勝負

工藤魅月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

組織と真つ向勝負

【Nコード】

N8034D

【作者名】

工藤魅月

【あらすじ】

俺は工藤新一高校生探偵！だけど蘭と遊園地に行つて、黒ずくめの男たちの怪しげな取引現場を目撃した。しかし、取引を見るのに夢中になっていた俺は、背後からちかずいてくるもう一人の仲間にきずかず俺はそいつに毒薬を飲まされ、きがついたら体がちじんでしまっていた。そこで俺は、博士に理由を話し、周りの人にも危害が及ぶ恐れがあると思い、江戸川コナンと言う偽名を使いお父さんが探偵事務所をやっている蘭の家に転がり込んだ。そこで、いろいろな奴らに出会った。そして、APTX4869を作った、張本人

灰原哀にであつた。そして、博士は、体が小さくなつた俺のために、
いろんなメカを作ってくれたんだ。そして、これは、その1年後の
話

「第1話」蘭の思い？

俺は工藤新一高校生探偵さ！だけど、蘭と遊園地に行つて、黒ずくめの男たちの怪しげな取引現場を目撃した。（拳銃密輸）しかし、取引を見るのに夢中になっていた俺は、背後からちかずいてくるもう一人の仲間にきずかなかった。俺はそいつに、頭を殴られ、APTX4869とゆう毒薬を飲まされ、きがついたら、体がちじんでしまっていた。

そこで俺は、博士に理由を話し、周りの人にも危害が及ぶ恐れがあると思い、江戸川コナンと言う偽名を使いお父さんが探偵事務所をやっている蘭の家に転がり込んだ。（組織の情報が、入ってくると思ったから。）そして、俺は、小学校1年生から、やり直すことになった。

そこで、いろいろな奴らに出会った。そいつらと、少年探偵団つて奴も開いたんだ。

そして、APTX4869を作った、張本人にも出会った。しかしそいつも、姉を殺され、組織に嫌気が差し、死のうと思った、毒薬が、体をちじませ、だしゅつすることができたそうだ。

そして、俺は、体が小さくなった俺のために、博士が、いろんなメカを作ってくれたんだ。

そして俺は、蘭のおちゃんを、迷探偵から、名探偵えとかえていったんだ。

そしておちゃんは、日本の人に、ほとんど知れ渡った。

そして、俺に來た依頼も、おちゃんのほうにいくようになったんだ。（おかげで、俺のファンレターは、途切れちまつたしよー・・・とほほ）

そして、この話は、俺がコナンとしてやってきた、1年後の話・・・（2年生）

「コナン君ーみんな待つてるよ、早くいこ？」

「うん！いつてきまーす！！」ガチャッ

この日は、いつもの朝だった。・・・この日までは・・・

「それでね？仮面ヤイバーが、悪者をやっつけたときには、とつてもこーふんしたなー」

「ええ、僕もです！！これこそ日本のスーパーマンだと思いますたよー！！」

「ああ、今になつても、仮面ヤイバーはやめらんねーぜ！！」

『ねっコナン君！！』

「そつそだな・ははは・・・はあ」

と、今になつても、仮面ヤイバーの話をしていた。しかし・・・

「バーカあんたたち、いつになつてもお子ちゃまね。今は絶対歌手の疾美克幸様よ！！」

と、園子が突っ込んできた。

だれ？

「なんだとー仮面ヤイバーのほーがカツコイーゼ！！その 克幸様だかしらねーが、何百倍も、何千倍も仮面ヤイバーのほうか、かつこいいんだ！！なっ！！光彦歩美コナン灰原！！」と、元たが言い張った。

『うん！！ええ、はい！！まっまあな！！・・・』（はあ・・・）

「うつまっまあ、あんたたちにも、いつかはわかることよ！！」

・・・と、なんだかんだで、かつこいいほうがどっちかの言い争いが、ながくつづいた。

帝丹小学校

「はあ・・・」と、コナンが、急に、ため息をついた。

「どうしたの？」と歩美がきいたら、
「ああ、いつになったら、元の姿にもどれっかなーと思ってなあ・
・」とコナンが、発言した
「えっコッコナン君？なにいつてるの？元の姿？それっていったい
どうゆう意味なの？」
「えっあ、歩美ちゃん？なんあんでもないよ！ちよつとしたひとり
言だよ！」（あつぶねー・・・）
「そっそかあ、それならいいんだ！ーなんか、悩みとかあったら、
歩美達にも相談してね。少しは、相談相手になれると思うから。じ
ゃあねー」
歩美のとっても優しい言葉、言ってやりたいが、このことを言っ
たら歩美達にまで危害が及ぶので、話さなかった。

帝丹高校

「ねえ園子、新一って、いつになったら帰ってくるんだろう。もう、
いなくなってから、1年もたつんだよ！」
と、ここでは、新一の話になっていた。
「そうねえ、もう、死んじやってたりして！ーしっしっし」
「もう園子ー私は、真剣に考えてるのにーそれに、ときどき、新
一からも、電話くるんだよ！ーだけど・・・」
「・・・もう、こうなったら、高木刑事たちに、新一君のこと、
探してもらおうよ！」
「えー、いいのかなそんなことしても」
「じゃあいいの？蘭は？このままいっしょう新一君と、あえないま
まで。」
「そっそんなわけないでしょ！わかった。帰りによって行こうよ。
警視庁に。」

そして、蘭と園子は、帰りに、警視庁に、よることになった。

どうでしょうか。今回は、ちょっと短めですが、書いてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8034d/>

組織と真っ向勝負

2010年10月10日19時43分発行